

会報

TUWV
OB会

二口峠

山溪の「我らグリーンパトロール」(一月号)に二口の自然破壊の現状が紹介されたのを見た人は多いと思う。いつかはこうなるだろうと思つてはいたが、現役も聞くとところによると、現役も今ではほとんど二口に入らなくなつたというのである。8月の末、ミヤギになる息子と二人で二口峠を越えてみた。本小屋周辺は大きな変化はないが、磐司尾根のとつつきにバンガローができて、姉妹滝の手前まで沢の右岸に遊歩道がつくられていた。磐司小屋は土台だけを残して消えていた。林道は、白糸の滝までは昔のコース沿いに作られていたが、滝の少し上流で左岸の斜面にジグザクに

登り始めて出る。カフワクの上には息子を肩車しての登りばかり。林道から下をのぞくと二口小屋に行く昔のコースのあたりには大きな石がいくつもころがっている。林道を更に登ってやくと、目の前の斜面に幾筋にも道が作られ、赤い山肌が見える。下に目を向けると小屋の屋根が林の中にある。天気が悪く山が見えないだけ、小屋がなみさらには懐かしい。我々が使っていたところは植林して向もなかり木が、今では屋根よりも高くなり、そこだけが静寂を保っているように見えた。林道は旧道のあった当りを中心にして右に左に大きく回りながら峠へと続いている。途中一部分ながら旧道を見つづけることができた。川田らと二口峠にヌードの雪ダルマを作った山行ごと、た字真と同じ所のような気がする。峠は昔の道標がなければ、それと分らないような雰囲気である。林道は清水峠の方に更に続いている。山寺側の林道

はどうやらもう一つ瀬の原寄りの沢沿いに作られているように、竜ヶ峰の登りもすうかり草におおわれて道がどこにあるか分らない。本当に誰も来ないようである。峠からは旧道を山手に下ったが、ここも廢道になりつつあった。特に沢床におりてからは、肩の上の息子の頭より更に高い草で道が全く隠されていた。この頃から雨も降り始め、ビシヨ濡れになつて林道に飛び出すと、息子は安心したのか、雨の中で眠り始めた。

— 佐藤拓哉(88歳)

事務局だより

横濱で毎月一回集まっています。ヒマな方は是非来て下さい。場所は横濱駅東口スカイビル地下「カプリ」オニ水曜午後七時です。OB会費の振り込みはどの銀行からでもごきます。オニ勸業銀行川崎支店「188-1604」(普通口座)へ。

近況報告

秋田で生きてます。岩魚の色男になつて週一度ずつ逢いひきを重ねてます。館岡淳(5)

東北大平後 神戸大医大再受験し 現在学部二年です。神戸に来て四年 大阪の藤田夫妻や富並氏と合つていたか二人共大阪を去つたので、誰か大阪へ来ないかなと思つています。 田中康則 (10)

今年より秦野の大山の麓に移り、毎日大山を眺めながら暮らしています。ニヤウ、丹沢には数回出かけております。 三日月道天 (8)

パイオニア山岳部の部長をやつてますが、昨年からは組合役員として専従になり、山の事は全然行かず常に留守番役名譽会長のようになっています。 九月に二人目の子供が生まる子定。元気です。 横山雄一郎 (5)

北九州に十年住んですつかり九州人になつています。東北の山や仙台がニースになるほど懐しくなりました。年に三回は低い山に登つて気晴しをします。竹井良夫 (4)

先日所用にて川内に行つた処、例の石垣にへばりつゝ又とリつくという具合で、この秋がTUVの二年生、しほし感慨をこめて眺めてました。カアチアムとムス一人の生活してます。愚因縁の新南社勤めともようやく手切るXド入つて秋には女川付近の山に入らつてもり。 藤中郁生 (9)

山登りには地ノ利(長野市)がありす。四月に一人で浅間に登つた位。なめ二人な山に登つた位。同期の連中の結婚式にはなまべく顔を出して忘れられたいようにしてす。 柴田修 (11)

鉾山探鉱技術という仕事上この三年間トオーストラリア

の砂漠・タスマニア島の山々ニユイギニア高地・マレー半島・フィリッピン群島の山々と自然を見参りました。合があれは写真スライド等紹介したいと思つてます。秋田のOBに加えて頂く予定。 加藤邦明 (6)

もう名簿からぬけてるものと思つていました。会報にかも四号が送られてきて驚かされた。小原会長の意見に賛成です。十年程歩のOB会がやり方を改めないで財政的に無理だと意見し、反対を以て以後遠ざかつていまして。 渡辺英夫 (1)

昨秋結婚。懐しい仙台北海道へ新婚旅行。今は父になる日が続つてます。入社と同時にワンゲル部に入り、山は続けたいです。五月は五日間北八ヶ岳。例年になく雪が多く、反比例して人は少なくて静かな合宿でした。 片野雅至 (9)

二年半の沖繩生活から一挙に懐しの仙台に。その寒さに少々戸惑ってます。南国ホケはしるもの。家から見ると蔵王ニ日泉の山々を見らるとムラ／＼とフアイトが湧いてきたか。女房曰く卒業して十年近くにもなり。腹も出てきたのに学生気分なんだから。頑張りまし。 桜洋一郎 (5)

時には忙しい事もあるが、暇と持て余す方が多い。にかかゆらずスキーは二日か行けた。た。 (在札幌) 一人暮しも飽きたから。今月(五月)一杯でやめるつもり。 濱聰 (8)

入叶津まで民宿の車で送ってもらい。サブにスキーを付けて。高曇一時小雨の中。六時肉で浅草岳へ。頂上でスキーを一つ。一気に入り降り。約一時間半。急体ない事です。予備日は快晴。せつかくたからと。会津朝日。往復。スキー。ストック。二本。ピッケル。代り。杖。一。は。快。通。な。れ。と。転。倒。時。に。日。不。安。何。の。い。い。も。の。な。い。か。い。な。 島崎賢 (4)

山とかTUVとかの言葉には全く縁遠くな。た私にと。て。故郷を思い出させてくれ。るもの。は。OB。会。報。の。み。で。あ。ろ。う。現。代。の。風。潮。と。は。云。え。の。B。と。現。役。の。向。に。溝。が。出。来。た。の。は。残念に思う。たまには仙台に帰る。の。で。在。仙。の。B。と。旧。友。と。暖。め。た。く。思。う。 上田俊朗 (7)

時は温水プールへ行ったりして運動不足を解消している。小生の会社も不景気であり。莫大な赤字を抱えており。つぶれて当然と思いの。未だつぶれてません。と。こ。から。金。が。入。つ。て。く。る。の。か。不。思。議。で。し。よ。う。か。あ。り。ま。せ。ん。 野本健二 (10)

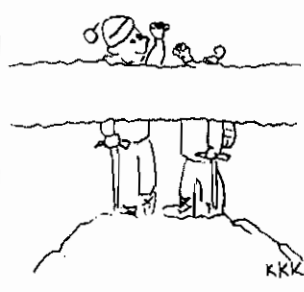
先日盲腸になり。少々手遅れで。27日。向。も。休。ん。で。し。ま。っ。た。回復後の調整をかねて。北ハツへ。五。月。末。に。行。っ。た。が。残。雪。と。雨。で。少。々。苦。勞。し。ま。し。た。 藤森英和 (7)

山はたまには行きたくなり。ます。が。行。っ。て。も。ハ。イ。ク。程。度。の。連。休。は。誰。か。連。れ。て。く。れ。小。は。と。金。子。君。に。探。し。て。も。ら。う。

たが誰もいず。行かすじまい。ました。八月に二人目ができ。ます。一人目は一年七月で。可愛いさかりです。 朝倉肇 (5)

四月に半年のトルコ出張から帰ってきて。あわただしい。東京の生活にもや。と。慣。れ。て。きました。下の子供か。ヤ。と。ニ。才。に。な。り。そ。う。そ。ろ。動。き。お。そうと思。て。ま。す。 平塚征英 (4)

柔色の勉強の為。定職でなくアルバートの就労と。繰り返して。る。の。で。ひ。と。い。低。賃。金。一。時。山。も。あ。き。ら。め。て。い。た。が。山。以外。の。恋人も現われ。そう。に。い。の。で。最近。ホ。テ。ル。と。又。金の。か。から。ぬ。山。を。歩。い。て。い。ま。す。十一月に。白。作。自。演。の。染。色。エ。ヨ。リ。が。あ。り。ま。す。興。味。の。あ。る。方。は。せ。い。脚。一。報。E! 中里美恵子 (8)



S50 OB山行企画書

S50のOB山行は平標小屋に集うことになっています。以下山行の概要とお知らせです。多数の参加をお待ちします。

山行形態 平標小屋集結

集結日 S50. 10. 11 (土) 当日小屋泊の幕営

コース 時に定りませんが、単行局にて本部パーティを構成します。そのコースを参考として掲載いたします。

(各行おのり)

10/10 (金) 上野 8:47 — 11:17 水と — 土合口 — 天神平 一角の小屋

10/11 (土) ◆ — 万太郎山 — 仙ノ倉山 — 平標山 — 平標小屋

10/12 (日) ◆ — 元橋 — 越後湯沢 (解散)

本発日の列車時刻 (上野発 8:47分 各行おのりお持ち 5番線) 決定済

* OB山行に関するお問い合わせ

| | 佐藤拓哉 | 水と俊彦 | 菅原英行 |
|----|-----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| 自宅 | 0468-41-8622 | 045-331-2023 | 045-881-7609 |
| 会社 | 045-712-1111 日本鋼管3号 EN技術開発部 | 044-355-1111 日本鋼管 倉庫管理課 | 045-881-1201 日産電子サービス 開発部 |

* OB山行に参加される方は上記宛御一報下さい。(小屋の宿泊手配の申し込み)

* 装備、食糧等は各自持参いたします

